

大婚滿二十五年奉祝文

等誠恐誠惶頓首再拜して

天皇

皇后兩陛下の大御影の御前に謹み畏みて

兩陛下の大婚滿二十五年の盛典を祝ひ奉りて申さく時しも春の彌生の初つ方囀る鳥も咲く花も我が

大君の長き世に千歳を契る春の日ののどけくもうらゝけくも大まなましまして我が御國のいにし昔よも例あきこの盛典を擧げさせられ百の官を初として天の下の年老いたる民どもをも惠ませ給ふこゝろ芽出たきこと感悦しきことの限にて聖代の御稜威は天日と共にいよいよ疆りなく皇國の祭は櫻花と共にますます増さん臣等誠恐誠惶頓首再拜して壽詞竟へ奉る

明治廿七年三月九日

第五高等中學校職員總代

第五高等中學校長從六位勳六等 中 川 元

生等謹み畏みて我か

天皇

皇后兩陛下聖影の御前に集ひて祝辭を申し奉らく伏乞て惟ふに我か

天皇陛下の御位に即かせ始ひしより

聖徳日に躋り治綱月に張り澤は蒼生に遍く仁は禽獸に及び大八洲の中物として其所を得ざるはあく人として其業に安せざるはあし殊に

皇后陛下の立后大典を行はせられしよりこの方二十五年の春を經給ひしを以て爰にこの大祝典を擧げさせ給ふるのめでたきこと何物か祝ひ奉らざん雲居の鶴も千代を呼ばひ水際の龜も八千代を祈る生等是のまさかりの御代に生れ將又けふの盛典に遭ふ豈嬉しきことの極みあらさらんや茲に舞ふ鶴の千代よばふ如く遊べる龜の八千代を祈るごとく齊しく喜の言のげして我が
兩陛下の彌益に榮えまします事を祝し奉る

第五高等中學校生徒總代

本科二年生 白河次郎